

# NEWS

# 3



13都市協会が集結！

特集

## 合同審判トレセン

メインテーマ「ファウルの見極め」

“学び”は失敗体験から

初めての映像分析にドキドキ!?



# STANDARD SCHEDULE

## 1 開会・スケジュール確認

---

研修の目的と狙い  
スケジュールの確認  
メインテーマの確認と意識づけ

## 2 実践

---

練習試合への割当て  
審判団としての約束事（打ち合わせ）  
主審と副審の協力  
ファウルの見極め

## 3 振り返り（事象分析）

---

主審の考えと判定  
動き方/見え方  
実際にはどうだったのか  
良かった所、課題点を抽出

## 4 まとめ

---

ファウルを見極めるために  
何のために動き、何を見たいのか  
どうすれば良いのか  
次の目標は

## 5 最後に

---

審判員への気づきに気づく  
恐れずにチャレンジする土壌作り  
従来の取り組みでは限界説も

## 第1回

練習試合  
5試合



明石西高  
VS  
明石北高

# 明石会場

この日、5協会が集まり開催した明石会場。  
スキル・経験値・年齢・活動カテゴリーの違う審判員が集結し、  
同じフィールドに立つ。

個々の違いはあるが、任務と役割は共通。

2 MARCH 2024  
10:00 KICK OFF

明石西高等学校  
グラウンド

CLOUDY  
12°C/8°C  
CLAY COURT

# SCHEDULE



第1回

明石会場

2024年3月2日 (日)

8:30 明石西高校 同窓会館集合

9:00 開会のあいさつ・自己紹介

9:15 講義「ファウルの見極め」

10:00 練習試合①

15:00 昼食・休憩

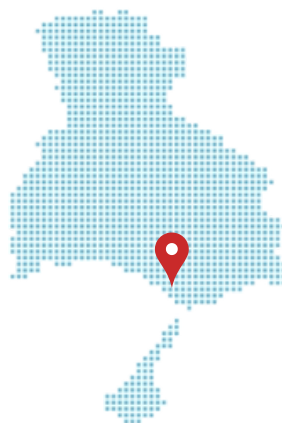
13:00 練習試合②

14:30 振り返り（事象分析）

16:30 閉会・解散

## 参加協会

明石協会  
姫路協会  
淡路協会  
北播磨協会  
西播磨協会





# 開会挨拶/自己紹介/目的と狙い



姫路協会審判委員長：松本氏からトレセンの目的と挨拶がありました。



参加された審判員・インストラクターそれぞれから自己紹介があり、和やかに会がスタート。



「このような研修会に参加するのが初めてで緊張していますが、今日は色々な事を吸収して帰りたいと思っています。どうぞよろしくお願いします！」との自己紹介が。



北播磨協会審判委員長：三木氏から今年度のテーマである「ファウルの見極め」をするための重要なポイントについて、説明がありました。





# 実践

## 練習試合への 割当て

高校生世代の試合で審判する機会がなかった方には良い経験・刺激になった。



午前/午後とで30分全5試合の試合設定をしていただきました。

テーマを意識しながら個々に今持っているスキルを発揮し、試合後には担当インストラクターからの指導が入りました。時折談笑がある中、厳しさと優しさの両面を持った指導も含め、良い実践機会となりました。

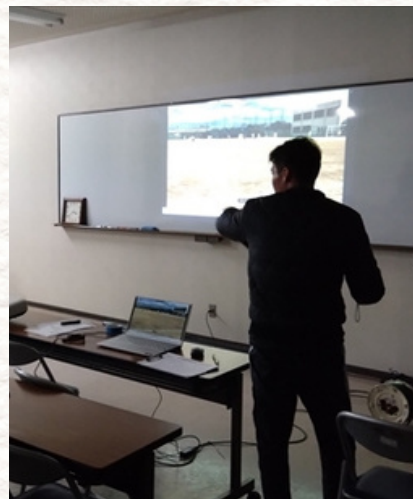






## 振り返り (事象分析)

会議室に戻り、撮影した映像を元にファウルの見極めに特化した事象分析が行われました。各試合の中のポイントとなった事象を担当インストラクターと審判団と一緒に繰り返し見ながら改善点を探り、良い判定に繋がるよう着地点を見い出しました。



## 第2回

練習試合  
4試合



柏原高  
VS  
西脇工業高

# 丹有会場

研修後半、曇りが降り始めた丹波地域。  
ここには5協会が集まり、今後更に活躍が期待される  
審判員とインストラクターが対面した。

今日は、トレーニングマッチの特性を活かし、  
いつも以上にチャレンジする日だ。

20 MARCH 2024  
9:50 KICK OFF

柏原高等学校  
グラウンド

HAIL  
8°C/3°C  
CLAY COURT



第2回

丹有会場

2024年3月20日（祝）

8:40 柏原高校 柏陵会館集合

9:00 開会のあいさつ・自己紹介

9:15 割当発表・着替え・移動

9:50 練習試合

12:20 昼食・休憩

13:10 振り返り（事象分析）

14:50 講義「なぜファウルは起きるのか？」

15:40 閉会・運営役員の振り返り・解散

## 参加協会

丹有協会  
北摂協会  
但馬協会  
西宮協会  
尼崎協会





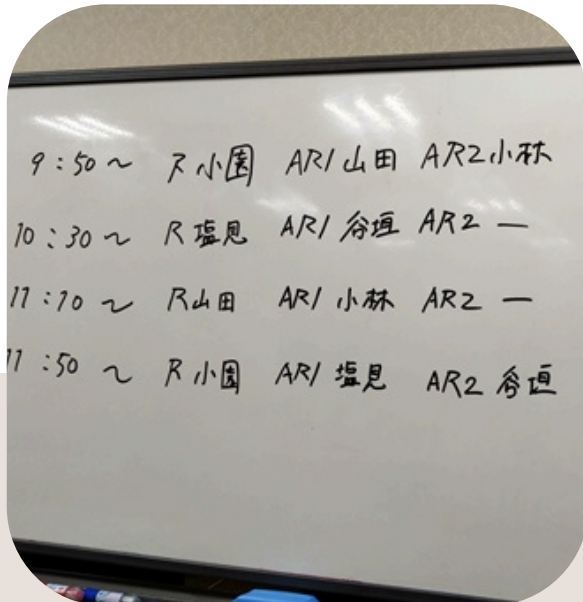
# 開会挨拶/自己紹介/目的と狙い



丹有協会審判委員長：松山氏からトレセンの主旨・目的について挨拶がありました。



村田氏（北摂協会審判委員長）より、審判員の試合割当てと担当インストラクターが発表されました。



[審判割当て]  
研修の傍ら交流の場でもあるため、あえて違う協会の審判員を組み合わせました。



柏原高校サッカー部の現マネージャーさんとそのOGの方も参加され、総勢20名を超える研修の場となりました。





指導・振返り



副審2の判定



アドバイス



インストラクター  
映像班

# 実践

## 練習試合への割当て

トレセンへの参加の意味を考えてみる。あの先生同士ならきっと分かって貰える。

自信を持ってやってみよう。失敗を恐れるより、挑戦を恐れる事の方が成長を妨げるって、思うから。

## GAME



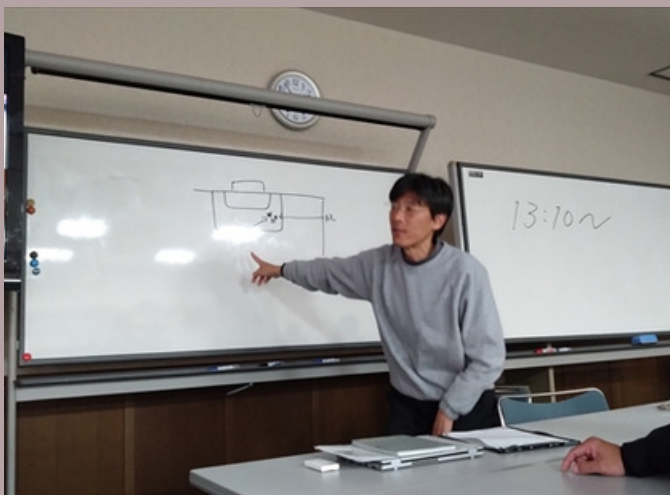
用具チェック



試合前の打ち合わせ







## 振り返り（事象分析）

試合終了直後に10分程度の振り返りを運営サイドのテント内で行いました。良かった点、課題点を伝えるインストラクター。それに応える各審判員。

全試合を終え、会館へ引き返し、次は起こった事象を全体/全員で共有するように撮影した映像を元に一緒になって考察しました。

ペナルティエリア内で反則があったと思われるシーンが映し出され、「どの位置で見えていた?」「どの方向からDFはチャレンジした?」「接触部位はどこ?」「じゃあ懲戒罰はどうなる?」と1つずつ意見交換しながら解析していき、最終的には「この場合はレッド（退場）で

はなく、①得点機会の阻止②ボールへのチャレンジと判断③1ランク下がって警告④PKにて再開が正しいのですね。」と審判員から回答を引き出せる事ができ、全員で統一認識できた成果ある一日となりました。

最後に「なぜファウルが起きるのか?」をテーマに塚本インストラクターから講義がありました。得点させない、負けたくない、有利な状況を作り出したい、得点差、時間帯等、試合の状況、競技者の心理状態も含めて、推察ならびに予期予測が必要である事を説かれた40分でした。

## 第3回

練習試合  
3試合



甲南高  
VS  
東播磨高

# 芦屋会場

芦屋・神戸協会による合同審判トレセン。  
参加人数が少なかったが故に、1人当たりの密度の濃さは  
全3回の内、トップクラス。

30分×3本のレギュレーションの中、  
三審判員が主審ー副審1ー副審2を巡回し、  
それぞれの役割を全うした。

24 MARCH 2024  
13:30 KICK OFF

甲南高等学校  
グラウンド

RAIN  
12°C/8°C  
CLAY COURT

# SCHEDULE



第3回

芦屋会場

2024年3月24日 (日)

9:30 甲南高校 視聴覚室集合

10:00 開会のあいさつ・自己紹介

10:15 講義「映像を見て」

11:00 ディスカッション・発表

12:00 昼食・休憩・着替え・移動

13:30 練習試合

15:00 振り返り（事象分析）

15:45 閉会・運営役員振り返り・解散

参加協会

芦屋協会  
神戸協会





# 開会挨拶/自己紹介/目的と狙い



芦屋協会審判委員長：川島氏からトレセンの主旨・目的についての説明と挨拶がありました。



三裏氏（神戸協会審判委員長）より、「何か一つでも持って帰っていただきたい。」との激励の言葉をいただきました。



司会/進行/講師でもあった渡辺氏（芦屋協会）から、審判員の試合割当てと担当インストラクターが発表されました。



参加審判員は少人数ではありましたが、その分自己紹介や活動実態、個々の課題について、細かく聞く事が出来ました。



# 実践

## 練習試合への割当て

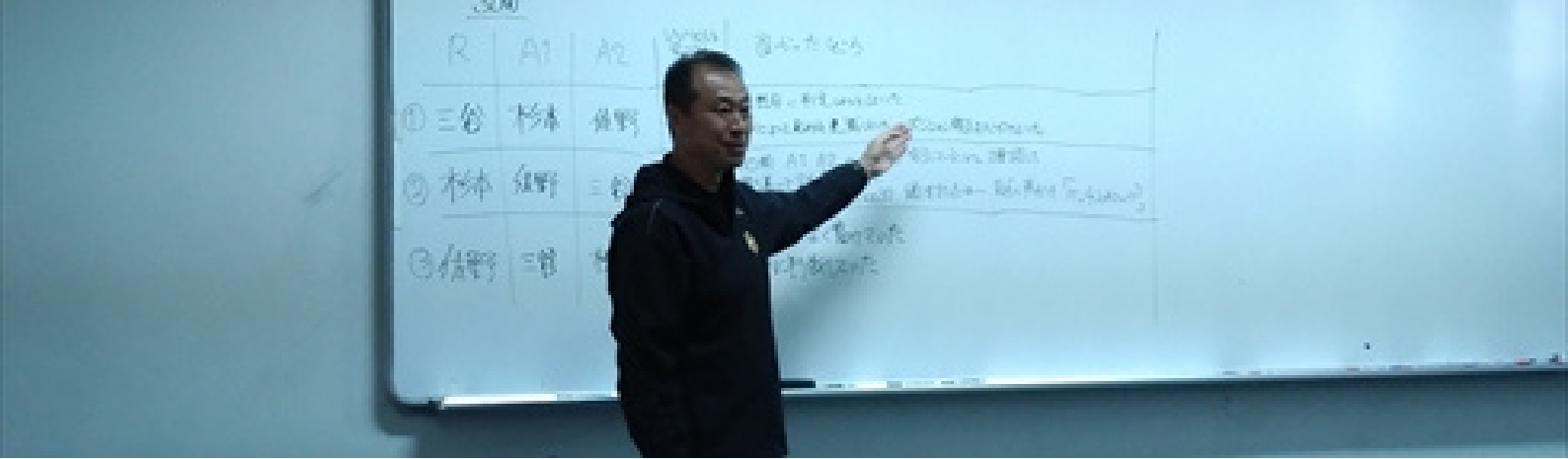
小雨が降りしき中、ゲームがスタート。  
午前中の講義やディスカッションで学び得た内容を  
噛みしめ、参加された3名全てが主審-副審1-副  
審2を一巡し、それぞれ良い経験が出来ました。

主審においては、パスコースに幾度となく入って  
しまったり、それを意識し過ぎて修正を試みるも下  
がってしまう事で次の争点から離されたり、副審で  
はオフサイドラインキープがうまく出来ていなかっ  
たり、と多くの課題が浮き彫りとなりました。

その反面、良い位置で判定できているシーンも  
多々あり、見に行こうとする意識、角度を取りなが  
ら最適経路を探す思考と実行力は、今回のトレセン  
で「より自信を深めて欲しい」と感じました。







このトレセンは、審判員だけではなく、インストラクター自身も研修の場でもあります。

今回は「良かった点＝褒める事」に焦点を置き、インストラクター3名からホワイトボードに書いた上で発表がありました。

- ・良く動いていた
- ・頭部負傷時への対応と再開方法が適切であった
- ・冷静に判断できていた

....と言った説明と称賛を審判員へ届けました。

また、せっかくの機会でもあるため、課題にも言及してもらう事に。最初は審判員とのやり取りがあったものの時間に連れ、指導に熱を帯びて来るインストラクター。やや一方的且つ一人が多くの事を喋ってしまい、審判員の表情が曇っていく始末…。今の時代、昔ながらの指導方法では中々うまく伝わらない+理解し難い事は、これまで何度も研修でレクチャーを受けているはず。

我々インストラクターも分析も含め、【伝え方】においては、まだまだ研鑽を積むが必要である事を痛感した時間でもありました。

これは芦屋会場だけでなく、他の2会場、いやもっと広く考えると、兵庫全体でももっと取り組むべき内容である、とトレセンを通じて感じた次第です。

## 振り返り 事象分析



## まとめ 最後に



会場、参加協会の支援・協力のもと、メインテーマ『ファウルの見極め』とし、全3回3会場にて審判トレセンが開催されました。

グラウンドならびに会議室をお借りし、また試合設定においては対戦相手との調整と来校引率、実試合に至るまで各高校関係者の皆様には、大変お世話になりました。

改めて御礼申し上げます。ありがとうございました。

今回も沢山試合設定をしていただいたお陰で、実技トレーニングの機会が多く取れました。メインテーマを念頭に置き、見ようとする場面も随所に見られ、それが良い判定に繋がっていました。ですが、足りない所も見受けられ、まだまだ成長の余地アリ、と感じました。どんな物でも誰もが最初から上手くいくはずもなく、トライ&エラーを繰り返していく事で上達していきます。

そこで審判インストラクターの出番となります。試合後に振り返りを行い、称賛と課題への助言がありました。ここでは試合熱が冷めない内（試合経過を覚えている内）に、起こった事象に対して振り返りを行いました。

お互いに時折笑顔を見せながらも非常に中身の濃い指導をされている光景がそこにはありました。上から目線の指導ではなく、相手の考えを引き出す形で話を進めていき、実際にプレーをその場で再現させ、より深い思考と理解を促していた光景もちらほらと。

実践の次はビデオ検証へ。審判員は着替えを済ませ、インストラクターは担当試合で起こった事象の時間や内容を映像担当者に伝え、全員で”ファウルの見極め”を中心に振り返りを行いました。出来た部分、そうでない部分を切り分けて指導する事で、成果と課題が見えてきます。

今回も1人につき複数回活動（主審→副審1等）が出来たので、即時次の試合で課題解決に向けた取り組みに繋がった事で多くの収穫があったと思います。

フィールドの中で動きながらの判定とやや俯瞰して静止状態で撮影している画角とでは、違って当たり前であり、試合の流れや雰囲気は主審でしか感じ得ない部分もあるため、一概に映像分析が完全に正しいとも言い難い所。

様々な視点・観点から総合的に見た判定結果を参加者全員で確認し、統一見解を持つ事が出来たと感じています。

総じて3会場ともに熱の籠った意見交換が行われ、多くの気づきや発見を得たトレセンとなりました。

ファウルの見極めについて指導するにあたり、どうしても「良い位置で見る」事は外せませんが、判定する際にボールの優先権、チャレンジできる可能性、接触の有無、接触があった際の部位、方向、スピード、強さ/深さ、タイミング、結果としてボールに触れたか否か、競技者の意図、懲戒罰の有無（ケガの危険性）等、沢山ある項目の中から瞬時に判断・決断しなければならない事を少しでも知っていただけたのではないのでしょうか。

そんなキッカケを作る場でもある、都市協会合同審判トレセン。今年度も無事終え、こうして今ご報告させていただいております。

最後になりますが、関係された全ての方々に深く厚く御礼申し上げます。ご協力ありがとうございました。